

第42回 全国少年柔道大会 要項

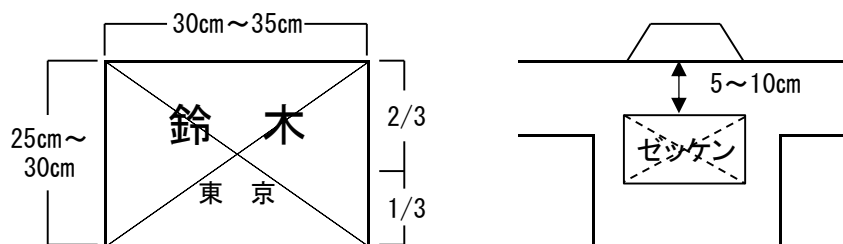
1. 目的 柔道の基本技能を正しく修得し、わが国の将来をになう心身ともに健康な小学生児童を育成するとともに、相互の親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 全日本柔道少年団、公益財団法人講道館、公益財団法人全日本柔道連盟、読売新聞社
3. 後援 スポーツ庁、東京都教育委員会、NHK、
(予定) 一般財団法人東京スポーツ新聞格技振興財団
4. 共同主管 公益財団法人東京都柔道連盟、東京都柔道少年団
5. 期 日 (1) 2022年5月4日(水/祝) 合同錬成 午後2時～4時(自由参加)
(講道館指導員・全柔連強化コーチ及び強化選手による基本錬成、技の解説、指導稽古)
(2) 計量 合同錬成終了後、選手全員の計量を行う
(3) 2022年5月5日(木/祝) 試合錬成 午前10時開始 午後6時終了予定
6. 会 場 講道館 新館7階 大道場 〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30
大会事務局 : 03-3818-5639/4246 道場受付 : 03-3818-4893
7. 参加資格 (1) 各都道府県柔道連盟(協会)の選考により、1チームが代表参加する。
但し、開催地は2チームとする。
(2) 参加する選手は、原則として2022年4月30日現在、小学校5年生・6年生の男女。
但し、5年生の補充として4年生は出場できるが、3年生以下の出場は認めない。
(3) 出場するチームは、全日本柔道連盟に団体登録をしていること。
また、選手はその団体から登録をしていること。
(4) 参加チームの監督は、全日本柔道連盟公認指導者資格【B指導員】以上を保有していること。
B指導員以上の資格保有者がいない場合でも、監督としてB指導員以上を保有した者がエントリー及び帯同しなければならない(全柔連登録団体が参加チームと異なっても可)。
この場合、コーチとしてC指導員資格保有者1名の追加エントリーを認めるが、旅費補助の対象外とする。
(5) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8. チーム編成 (1) チームの編成は分団、または道場単位とする(混成チームは認めない)。
(2) 1チームの人員は監督1名、選手5名とし申込後の変更はできない。
今大会に限り、補欠はおかない。
(3) 選手の編成は大將・副將・中堅は6年生。次鋒・先鋒は5年生とし学年順に配列する。
ただし、下学年の児童が一学年上の児童の位置に出場することはできない。
また、選手は各学年順に配列し、同学年内は「体重順」に配列すること。
(4) 計量結果に伴う選手の配列変更は前日計量時に行うこと。
(5) 2戦目以降の怪我による選手の配列変更は認める。ただし、(3)に定められた編成(学年順)内で配列すること。変更については配列決定後、各試合場に届け出ること。
(6) 一旦退いた選手は、その後の試合に出場することはできない。
9. 試合方法 (1) 試合は、3チームによるリーグ戦と、リーグ戦1位チームによるトーナメント戦で行う。
(2) 各チーム5名の点取り対抗戦とする。
(3) チーム間の勝敗決定方法は、次のとおりとする。
 - ① 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - ② 勝ち数が同じときは内容(「一本勝ち」「技有り」の勝ち数)による。
 - ③ 内容も同じときは、リーグ戦においては引き分けとし、トーナメント戦においては代表戦を1回行い、必ず優劣を決する。代表戦に出場する選手は、「引き分け」の中から抽選で1組を選んで通常の3分間の試合を行う。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は旗

判定で勝敗を決する。(GSは行わない)

- (4) リーグ戦における順位決定は次のとおりとする。
- ア. 2勝、1勝1引分け、1勝1負、2引分け、1引分け1負、2負の順位とする。
 - イ. アで同等の場合は、リーグ戦を通じて(ウ以下同様)勝者総数の多いチームを上位とする。
 - ウ. イで同等の場合は、「一本勝ち」による勝者総数の多いチームを上位とする。
 - エ. ウで同等の場合は、「技あり優勢勝ち」による勝者総数の多いチームを上位とする。
 - オ. エで同等の場合は、敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - カ. オで同等の場合は、「一本」による敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - キ. カで同等の場合は、「技あり」による敗者総数の少ないチームを上位とする。
 - ク. キで同等の場合は、抽選によって順位を決定する。

10. 審判規定
- (1) 国際柔道連盟試合審判規程及び国内における少年大会特別規程による。
 - (2) 試合時間は3分間とする。
 - (3) 勝敗の決定基準
勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「僅差」※とし、得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。
※「僅差」とは、双方の選手間に技による評価(技あり)がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。
 - (4) 試合場内の大きさは、32畳とする。
11. 表彰
- (1) 第1位から第3位までを表彰する。
 - (2) 技術優秀賞10名を表彰する。
12. 申込方法
- (1) 全柔連ホームページより所定の申込書をダウンロードし、メールに添付して提出すること。
申込み用アドレス : moshikomi@tojuren.or.jp
* 申込書はPDF等にせず、Excelデータのまま送付のこと。
* 主管(都柔連)より申込完了メールを送信します。迷惑メールの対策などでドメイン指定を行っている場合は「@tojuren.or.jp」を受信設定してください。
 - (2) 問合せ先 第42回全国少年柔道大会 事務局(主管：(公財)東京都柔道連盟)
月・水・金 03-3818-5639 / 火・木 080-3487-8054
 - (3) 申込締切り 2022年3月30日(水) 必着
13. 組み合わせ 2022年4月1日(金) 午後4時 大会事務局において主催者が行う。
14. 保険 傷害保険(試合のみ)
- (1) 参加者全員が傷害保険に加入し、その費用は主催者が負担する。
なお、大会出場にあたり事前に医師の健康診断を受けて、異常(試合に出場するについて支障)がないことを確認しておくこと。
 - (2) 参加者は健康保険証を必ず持参すること。
15. 旅費の補助
- (1) 監督1名・選手5名の旅費は、大会旅費規定により各道府県庁所在地から東京電環までの普通往復運賃を主催者が負担する。
 - (2) 旅費は5月4日、監督会議で支給する。(監督は当日、印鑑持参のこと)
16. その他
- (1) 大会当日の昼食(監督1名・選手5名 計6名分)は主催者が弁当を用意する。
(講道館本館2階教室でチームごとに渡す)
 - (2) 諸会議等
 - ① 審判会議 5月4日 午後4時30分 講道館 新館2階 第4会議室
 - ② 監督会議 5月4日 午後5時 講道館 新館2階 教室
 - (3) ゼッケン(都道府県名と名字入り)を、柔道衣に着けて試合すること。
ゼッケンを着けていない選手は出場できない。
途中で外れることのないよう、しっかりと縫い付けること。
 - ① 布地は白色(晒・太綾)
 - ② サイズは概ね横30cm~35cm、縦25cm~30cm

- ③ 名字(姓)は上側2/3、都道府県名は下側1/3
- ④ 書体は太いゴシック体または明朝体で、男子は黒色、女子は濃赤色。
- ⑤ 縫い付けの場所は後ろ襟から10cm、対角線にも強い糸で縫いつける。



17. 新型コロナウイルス感染症対応について

本大会では新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、下記の通り対応する。

- ① 選手、指導者等すべての入場者が健康記録表(大会10日前から実施)を提出すること。
- ② 出場選手全員にPCR検査を義務づける(実施方法については4月以降に別途通知)。
- ③ 錬成当日受付にて検温を実施する。
- ④ 選手は試合時のみマスクを外すことができるが、その他関係者は常時マスク着用のこと。
- ⑤ 感染者・濃厚接触者が確認された場合は速やかに大会事務局に報告すること。

※上記項目にご協力いただけない方は本大会に参加できないものとする。

また、提出された書類は個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き本人の同意を得ずに第三者に提供しない。但し、大会会場にて感染者またはその疑いのある方が発見された場合は、必要な範囲で保健所等に提供することがある。

18. 脳震盪対応について

ジュニア(20歳未満)以下の選手および指導者は下記事項を遵守すること。

- ① 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
- ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
- ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- ④ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。

19. 個人情報、肖像権の取り扱いについて

- ① 参加申込用紙に記載された個人情報・競技結果・大会中に撮影された写真または動画等の映像が、大会プログラム・競技会場内外の掲示板等・全柔連ホームページ・大会ホームページ・セイコースポーツリンクに掲載される場合がある。
- ② 全柔連の許諾を受けたテレビ局等の企業により、試合を撮影した映像の中継・録画放送が、テレビ放映及びインターネット配信されることがある。また、その他報道機関等により新聞、雑誌、テレビおよび関連ホームページ等に公開される場合がある。
- ③ 大会時に撮影する映像(ケアシステム等)を、審判員および指導者の技能向上のための研修会資料として使用する場合がある。

<お願い>

本大会は、身体的にも精神的にも発達途上の小学校児童の大会であることを常に念頭におかれて、特に危険防止について考慮されたい。また、礼法を正しく行わせることはもとより、姿勢・組み方についてもご配慮・ご指導をお願いしたい。